

令和元年 6 月 吉日

日本体力医学会 南九州地方会第 1 回大会のご案内（第二報）

当番幹事 井福 裕俊
(熊本大学大学院 教育学研究科)

時下、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、日本体力医学会南九州地方会第 1 回大会を下記の要領にて開催することになりました。初めての開催ですので、どのような大会になるか予想もつきませんが、少しずつ準備を進めているところです。

つきましては、大会の開催要項と演題および参加申込書をお送りいたしますので、多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

1. 会期：令和元年 7 月 13 日（土）

2. 会場：くまもと県民交流館パレア（テトリアくまもとビル 10 階 第 7・8 会議室）

〒860-8554 熊本市中央区手取本町 8 番 9 号

(<https://www.parea.pref.kumamoto.jp/access.html>)

3. 日程（予定）

13：00～13：15	会長挨拶
13：20～13：50	総会
13：55～14：55	特別講演
15：05～16：05	教育講演
16：15～17：00	一般演題発表
17：00	閉会

4. 特別講演

演者：日本体力医学会 常務理事 碓井外幸先生（東京国際大学 教授）

演題：これまでとこれからの日本体力医学会－地方会に期待されていること－

5. 教育講演

演者：元鹿児島大学副学長 飯干明先生（鹿屋体育大学 連携大学院特任教授）

演題：健康づくり・体力づくりは日々の生活から

6. 大会参加申込

- 1) 大会に参加される方は、「参加申込フォーム」に氏名、所属および懇親会への出席の有無等をご記入の上、令和元年6月21日(金)までにメールにて大会事務局までお送りください。
- 2) 参加費は無料です。
- 3) 当日の参加申込も受け付けますが、準備の都合上、できるだけ事前の申込をお願いします。

7. 一般演題発表申込要領

- 1) 一般演題発表を希望される方は、「一般演題発表申込フォーム」に演題名および演者等をご記入の上、抄録原稿と併せて大会事務局までお送りください。お送りいただいた抄録原稿は、「予稿集」および学会の機関誌「体力科学」に掲載されます。
- 2) 発表者、共同演者ともに日本体力医学会会員でなくても発表は可能です。ただし、「非会員の筆頭演者」が機関誌「体力科学」へ掲載を希望する場合、3,000円の掲載料を頂戴することになっております。ご了承ください。
- 3) 抄録原稿（見本参照）
 - ・原稿は一題900字以内で、表題・著者名・所属・本文を和文で表記してください。表題はゴシック体11ポイント、著者名・所属・本文は明朝体11ポイントでA4用紙サイズ1枚（余白は上下左右25mm）に作成ください。
 - ・本文は【目的】、【方法】、【結果】、【考察】などの順にまとめて記入してください。図表は掲載できません。
 - ・共同研究の場合は、発表者に○印をつけてください。
 - ・原稿はMicrosoft Wordで作成し、大会事務局にメール添付で提出ください。
- 4) 演題申込および抄録原稿締切日
令和元年6月21日(金)

8. 一般演題発表方法

- 1) 本大会での一般演題は、パソコンを用いた口頭発表です。発表時間は14分（発表10分、質疑応答4分）の予定です。
- 2) 使用パソコンを事務局で用意します（OS: Windows10、プレゼンソフト: PowerPoint 2016）。また、ご自身のノートパソコン等をご持参いただいても構いません。発表時のパソコンの操作は、発表者自身で行ってください。
- 3) 会場プロジェクターの接続端子はHDMIです。これ以外の端子を装備したパソコンをご使用の場合は、各自で変換アダプタをご用意ください。

9. 健康運動指導士および健康運動実践指導者の方へ

本大会は、健康運動指導士および健康運動実践指導者の登録更新に必要な履修単位として、講義2単位が認められます。履修を申請される方は、健康運動指導士証および健康運動実践

指導者証をご持参の上、受付で手続きをしてください。

10. 懇親会のご案内

以下の日程で懇親会を開催する予定です。奮ってご参加ください。

日時：令和元年7月13日（土）17：30～19：30

場所：ジャンジャンゴー（熊本市中央区花畑町13-10、Tel：096-323-1121）

会費：4,000円（当日、受付にてお支払いください）

11. 大会事務局

事務局長 坂本 将基

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-40-1

熊本大学大学院 教育学研究科

Tel：096-342-2796

E-mail：sakamoto@educ.kumamoto-u.ac.jp

※ プログラム内容や時間等につきましては、最終的に変更することがあります。

以上

<抄録原稿見本>

下肢自重負荷トレーニングによる起立性低血圧の改善効果

○発表者¹、共同演者²、共同演者³

¹所属、²所属、³所属

【目的】起立性低血圧（OH）者は、立位時の血圧調節に及ぼす下肢の抗重力筋の作用が弱い傾向に……。【方法】3分間の起立試験によりOHと判定された18-20歳の女性14名を対象に、……。

